

火をつけたトーチをストーブに入れる児童たち
9日午前、六甲山小学校(撮影・風斗雅博)



山の学校 ストーブ火入れ 六甲山小

標高795メートルにある六甲山小学校(神戸市灘区六甲山町)で9日午前、石造りのストーブに児童が火をともし恒例の「火入れ式」があった。

神戸地方気象台(同市中央区)によると、この日午前9時時点の同気象台の気温は16・2度。同じころの同校では9度と7度以上低かった。

式は毎年二十四節気の「霜降そうりゅう」の時期に合わせて実施されるが、今年は台風21号の影響で延期になっていた。近くの六甲山幼稚園の園児4人も加わり、52人が参加した。4〜6年生が4班に分かれ、木の棒を板にこすりつける道具で火おこしに挑戦。1時間以上作業を続けたが、炎は上がらず、前日に教員がおこした火を使って6年生8人がトーチでストーブへと火をともした。

6年生の寺尾龍ノ佑君は「今年は最後だったので火をおこせず悔しい。来年は協力して頑張ってほしい」と話した。

同校は朝の気温が10度以下になるとストーブを使用するという。(赤松沙和)

NEXTに動画